

令和5年7月20日

早いものでもうすぐ第1学期が終了を迎えます。保護者及び関係の皆様には日頃からご協力いただき誠にありがとうございます。この1学期間、ブログ等を中心にお伝えしましたとおり、様々な授業・行事を行って参りました。今後さらに積極的な発信をしてまいります。

今年度の水戸特別支援学校のグランドデザインについては、5月16日に行われた学校運営協議会にて承認され、5月24日に全校集会で児童生徒に説明をしました。オンラインでの集会だったので、子どもたち一人一人の表情を見ながら話すことはできなかったのですが、

Society5.0の動画(<https://youtube.com/watch?v=xQnnAih8KIo&feature=share>)を交え、一人一人と対話するつもりで、「今年度みんなでどんなふうに学校をつくるか」というテーマで、グランドデザインの説明をしながら、以下の点について話をしました。

- これから幸せに生きるためにできるようになるとよいこと。
- 「誰一人取り残さない」とは→「人からされて嫌なことは人にしない」ということ(みんなの約束です)。
- 対話する力(本音を言い合える、約束を守りながら)が大切。
- 自分の考えを持って自分から自分らしく自分なりに
- 立場の違いはあるが、みんな(大人も子どもも)人として対等。
- 学校はあるものではなくつくるもの。みんなでつくっていこう。

そうしたところ、その翌週に「校長先生と話がしたい」と、ある生徒が校長室を訪れました。私の全校集会での話を聞いて思ったことを話してくれました。内容については、主に次のようでした。

- 安全・安心について浸透させてほしい。
- 差別しないこと 性的差別とか 水着も男女分けないものがある。
- 心のケアをしてほしい。テレビを見ていて、学校が絡む事件等が起きると不安になってしまう。

私はその生徒が何を伝えたいのか、傾聴しました。その都度、気になることは問いながら、了解しあいました。そして、その意見から、子どもたちが安全・安心に学べる環境づくりについて、私たち大人にとって必要なことを改めて教職員に伝えました。

- ・支援する側の安全・安心への意識について、常に振り返りが必要
- ・差別や人権に配慮した言動について、常に振り返りが必要
- ・子どもが自分ではどうしようもできないことへの不安があることやその心のケア等を大人が常に意識することが必要

学校をつくろうと伝えてくれた意見やこれまでの活動から、今一度学校全体で現在の状況を把握し、課題をあげ、振り返りをしていくことにしました。グランドデザインの実現を目指し、子どもを主語にした「信頼」あふれる学校づくりを学校にかかわるすべての人が実感できるよう努力して参ります。

以下、学校全体で実施中の取り組みです。

1 取り組みについて

※教職員一人一人が最上位の目的(誰一人取り残さない→人からされて嫌なことは人にしない)を合意し、主に①から④について対話を大切に取り組んでいます。

①子どもを主語に、自分から、自分らしく、自分なりに、の解釈と合意形成について

- ・子どもを主語にプロジェクト(新規立ち上げ)の推進
- ・子どもに合った課題解決型の授業スタイルの実施状況確認とさらなる推進

②子どもとの、人として対等で、リスペクトしたかわり の実践と振り返りについて

- ・対話を大切に、日々子どもの事実から学び続ける意識の確認
- ・子どもと向き合うための働き方改革の推進
- ・ハラスメントについての研修

③児童生徒の実態把握・支援方法について

- ・子どもの気持ちをくみ取った指導になっているか確認
- ・子どもから学ぶ姿勢、伴走スタイルの支援のさらなる実践

④個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用した保護者と学校での必要な支援に関して共通了解について

- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の意義について再度確認し、それに基づいた子どもの支援体制の検討とその説明
- ・信頼を得られる情報共有のあり方

2 実施後の評価について

学校評価の保護者アンケートを活用していきます。

今後ともご協力よろしくお願い致します。

茨城県立水戸特別支援学校

校長 林 孝一